

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成23年3月17日(2011.3.17)

【公開番号】特開2010-173326(P2010-173326A)

【公開日】平成22年8月12日(2010.8.12)

【年通号数】公開・登録公報2010-032

【出願番号】特願2010-59991(P2010-59991)

【国際特許分類】

B 3 2 B 27/32 (2006.01)

C 0 8 F 210/06 (2006.01)

B 6 5 D 65/02 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 27/32 1 0 3

C 0 8 F 210/06

B 6 5 D 65/02 E

【手続補正書】

【提出日】平成23年1月27日(2011.1.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

DSCに基づく結晶融解曲線から求められたピーク温度( $T_p$ )が110~140、融解開始温度( $T_s$ )と融解終了温度( $T_e$ )との差( $T_e - T_s$ )が45未満、及び融解開始温度( $T_s$ )とピーク温度( $T_p$ )との差( $T_p - T_s$ )が35未満のプロピレン・オレフィン共重合体(A)から得られる熱融着層の片面に、直鎖状低密度ポリエチレン(B)から得られる中間層を介して前記プロピレン・オレフィン共重合体(A)から得られるラミネート層が積層されてなることを特徴とする熱融着性プロピレン系重合体積層フィルム。

【請求項2】

請求項1記載の熱融着性プロピレン系重合体積層フィルムが包装用である熱融着性プロピレン系重合体積層フィルム。

【請求項3】

請求項2記載の熱融着性プロピレン系重合体積層フィルムが纖維類包装用である熱融着性プロピレン系重合体積層フィルム。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

プロピレン・-オレフィンランダム共重合体(A)

本発明に係わるプロピレン・-オレフィン共重合体(A)は、DSCに基づく結晶融解曲線から求められたピーク温度( $T_p$ )が110~140、好ましくは115~130、融解開始温度( $T_s$ )と融解終了温度( $T_e$ )との差( $T_e - T_s$ )が45未満、好ましくは30~40の範囲にあり、好ましくは融解開始温度( $T_s$ )とピーク温度

( $T_p$ )との差( $T_p - T_s$ )が35未満、より好ましくは25~34の範囲にある。プロピレン・-オレフィン共重合体(A)のオレフィンの含有量は上記熱融解特性を有する限りとくに制限はされないが、通常はオレフィンの含有量は1.0~20重量%、より好ましくは1.5~15重量%の範囲にある。オレフィンとしては、エチレン、1-ブテン、1-ヘキセン、4-メチル・1-ペンテン、1-オクテン等が例示できる。これらの中では、エチレン及び/又は1-ブテンとのランダム共重合体が好ましい。又、MFR(メルトフローレート; ASTM D-1238 荷重2160g、温度230)はフィルムとすることができます限り特に限定はされないが、通常0.5~20g/10分、好ましくは2~10g/10分の範囲にある。本発明に係わるプロピレン・-オレフィン共重合体(A)は通常、分子量分布(重量平均分子量 $M_w$ と数平均分子量 $M_n$ との比で表される)が2~3の範囲にある。

本発明に係わるプロピレン・-オレフィン共重合体(A)は、熱融着性プロピレン系重合体積層フィルムの熱融着層の原料、及びラミネート層の原料となる。

本発明に係わるプロピレン・-オレフィン共重合体(A)の上記ピーク温度( $T_p$ )、融解開始温度( $T_s$ )及び融解終了温度( $T_e$ )は以下の方法で測定した。プロピレン・-オレフィン共重合体(A)約5mgを秤量し、セイコ-電子工業株式会社製の示差走査熱量計(タイプDSC220モジュール)を用いて、昇温速度;100/分で200まで昇温し、200で5分間保持した後、降温速度;100/分で0まで冷却し、再度、昇温速度;100/分で0~200まで昇温したときの融解曲線を測定し、かかる融解曲線から、ASTM D 3418-99の方法に習い、融解曲線からピーク温度( $T_p$ )、融解開始温度( $T_s$ )、融解終了温度( $T_e$ )を求めた。尚、本発明では、ASTM D 3418-99に記載の( $T_{pm1}$ )を( $T_p$ )、( $T_{eim}$ )を( $T_s$ )及び( $T_{efm}$ )を( $T_e$ )とした。